

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401657
法人名	有限会社 パートナー
事業所名	グループホーム さくらはうす
所在地	〒859-2202 長崎県南島原市有家町山川21番地 (電話) 0957-76-8500

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月9日	評価確定日	平成21年2月24日

【情報提供票より】(H21年 1月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	8月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	13 人	常勤	8人, 非常勤	5人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・よしだ歯科クリニック・内田医院・しろの医院・公立新小浜病院
---------	------------------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさくらはうすは地域の方々の要望もあり、平成20年5月からミニデイサービスを始められた。そのため今まで入所までは必要ない方や様々な負担の軽減ができるため、通所のミニデイサービスの利用者からは大いに喜ばれている。また入居者とも自然と馴染んでいただけるように心配りも出来ており、皆さん穏やかに過ごされている。地域の方々との交流は夏祭りを当ホームの駐車場でを行い、70名ほどの親子連れが集まり、大盛況であった。また小学生には夏休み期間中、駐車場をラジオ体操の場として提供し、入居者も小学生と朝の体操をしながらスキンシップを図られている。昨年はあまり行えていなかった運営推進会議に対して、どうすれば内容を充実出来るかと考え、スライドを使って説明するなど、家族に「分かり易い」との声をいただいたことで、今後のやる気につながれている。買い物などは近くに大型スーパーやドラックストアなどがあり、非常に便利である。また近くのファミリーレストランでの軽食も入居者には好評である。職員も入居者と笑顔で談笑しながら生活されている、温かみを感じるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価に関しては改善計画シートを用いることで一つひとつ取り組みを行い、前年度よりも質の向上に役立てられている。具体的な改善課題の取り組みとして災害対策があり、火災に止まらず、地震や水害等のマニュアルを作成されている。また非常持ち出しの最低限のファイルを作成中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の12月から自己評価を全職員に配布し、1ヶ月間で自己評価の意義を検討した。集計したものをもう1度全員にフィードバックすることで更なる理解を深められている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度は2ヶ月に1回会議を開かれている。昨年度は運営推進会議の方向性に迷っていたが、今年度はスライドを使って説明を行うなどの工夫がなされ、家族にも好評価を得ている。また今後は民生委員や子供の父兄、小学校の先生などの参加を呼びかけ、多角的な意見を引き出すよう、努められている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的なたよりを発行され、入居者の暮らしの様子を伝えられている。また行事での生き活きとした写真を載せ、職員が手書きで状態などをお伝えしており、家族からも好評である。家族面会時には近況報告と並んで、家族からのお尋ね、意見を伺っている。玄関には意見箱を設置したり、無記名アンケートを行われたりと、家族からの意見を真摯に受け容れ、誠意をもって対応するように心がけられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に参加されたり、小・中学生の福祉体験を受け入れられ交流を図られている。夏祭りの雰囲気良かったため、高校生からボランティアでイベントを申し込まれるなど、活発なつき合いが行われている。また夏休み期間中にラジオ体操をする場所を提供されていることもあり、七夕やクリスマスなどの行事の際には子ども達の方からも積極的な交流があり、良好な関係が築かれている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの理念は「笑顔がえし」を掲げている。この理念は入居者、家族にも理解されやすい理念であり、地域で暮らしていくことを念頭に笑顔(ほほえみ)合うことで互いに笑顔を返し合う関係を目指されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所入り口や事務所、名札の裏などの見やすい場所に理念の文言を掲げ、確認している。また介護目標が難しい文言だったため、職員にどのような介護をしていくべきか、というアンケートを行い、平成19年度に改めて具体的な介護目標を作り上げられ、日々の取り組みに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加されたり、小・中学生の福祉体験を受け入れられ交流を図られている。夏祭りの雰囲気が良かったため、高校生からボランティアでイベントを申し込まれるなど、活発なつき合いが行われている。また夏休み期間中にラジオ体操をする場所を提供されていることもあり、七夕やクリスマスなどの行事の際には子ども達の方からも積極的な交流があり、良好な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の12月から自己評価を全職員に配布し、1ヶ月間で自己評価の意義を検討した。集計したものをもう1度全員にフィードバックすることで更なる理解を深められている。外部評価に関しては改善計画シートを用いることで一つひとつ取り組みを行い、前年度よりも質の向上に役立てられている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2ヶ月に1回会議を開かれている。昨年度は運営推進会議の方向性に迷っていたが、今年度はスライドを使って説明を行うなどの工夫がなされ、家族にも好評価を得ている。また今後は民生委員や子供会の父兄、小学校の先生などの参加を呼びかけ、多角的な意見を引き出すよう、努められている。		

グループホーム さくらはうす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政側にわからない点を尋ねたり相談したりと、または行政側から相談を受けるなど、お互い協力的に対応している。今後も連携をとって事業所の運営、サービスに活かしたいという希望を持たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にたよりを発行され、入居者の暮らしの様子を伝えられている。また行事での生き活きとした写真を載せ、職員が手書きで状態などをお伝えしており、家族からも好評である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には近況報告と並んで、家族からのお尋ね、意見を伺っている。玄関には意見箱を設置したり、無記名アンケートを行われたりと、家族からの意見を真摯に受け容れ、誠意をもって対応するように心がけられている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の馴染みの関係を大切に考えられ、職員の離職を抑える取り組みとして勤務シフトを組む時はまず職員の希望を積極的に聞き入れる事や、正月は必ず連休を取れるようにすることで、ストレスが溜まらないように工夫されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく入った職員には新人指導表を作成され、介護経験のない職員でも介護資格が取れるように働きながら育てる取り組みがある。内部研修もケア会議の際に2時間前後行われている。外部研修は出勤扱いで参加できる。		今後はさらなる向上を目指すためにターミナルケアなどの多角的な介護技術の習得を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は島原半島ケア研究会に参加され、同業者と交流する機会を得ている。当ホーム主催の夏祭りの手伝いに来ていただくなど、職員同士の交流も図られている。時には職員を連れて訪問をするなど、質の向上に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては、家族、本人に見学していただき、病院や他の施設からの場合は本人に面談し、当ホームに馴染まれるかどうかを確認するなど、入居に際しては細心の配慮がなされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者より昔話を教えられることで、地域の歴史に触れたり、調理の味付けを指導していただいている。また職員はもとより入居者からの声かけが優しく、笑顔で接していただくことで、理念の「笑顔がえし」が出来る関係を築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の生活歴の充実を図り、センター方式にある気持ちシートを利用され、本人の意向の把握に努められている。また家族にも協力していただくことでより深く確認されている。また日誌には蛍光ペンの色分けをすることで、重要度別に即把握できるよう工夫されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>今年度から新しい書式を作成され、本人の希望すること・課題等を詳しく確認し、家族との情報交換により現状を理解し、意向に沿えるようにしている。家族の同意を必ずいただいている。また担当者を決めることで、きめ細かい現状把握に努められている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは定期的(3ヶ月)、或いは変化に応じて随時おこなっている。申し送りノートなどに気づきが多くあげられ、職員が見て情報共有しやすい記録、また家族が見られてもわかりやすい記録のあり方に心がけている。</p>		

グループホーム さくらはうす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や2週間に1度、協力医の往診がある。時には近隣のファミリーレストランでデザートを食べることで、入居者の食への意欲を向上させる支援がなされている。またミニデイサービスを始められるなど、様々な状況にも柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医への継続した受診を支援している。受診時には家族へ随時連絡するなどの支援がなされている。協力医による往診が2週間に1度あり、体調管理がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予測される場合また主治医が気になる状態の方がおられる場合は、家族へ相談する形で、ホーム・家族・医療機関の三者で連携し、方針を共有するようにしている。看取りの指針を用意され、家族の同意も得るようになされている。当ホーム以外を希望される場合は、退居先の用意もなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報が入居者の目に触れないように工夫して保管されている。入居者への声かけも笑顔で優しい語りかけであり、一人ひとりの誇りや尊厳を損ねないように心がけられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルがあらわれることを尊重し買い物や散歩など、出来るだけ本人のペースで生活していただくよう支援している。行きつけの美容院へ送迎するなど、今まで過ごされた環境を尊重し、その人らしい暮らしを支えられている。		

グループホーム さくらはうす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	巻きずしなど入居者と共に作られ、職員も一緒にテーブルについて食事をされている。その際一緒に作られたことで楽しい会話が広がり、和やかに食事を楽しむ様子が伺えた。また誕生日にあたった入居者の好みの食事を提供することで、大変喜ばれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に火・木・土曜日となっている。入居者は入浴日によって曜日の感覚を感じられている。入浴されない日は部分浴や清拭で清潔保持に努められている。また人的配置が可能であれば入浴の時間にも対応できるようにしたいと、柔軟な支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者本人が自分の仕事として洗濯物たたみや食事の下拵えなどを手伝っていただき、料理の仕方を職員が尋ねたり料理の味見など家事に多く関わっていただくようにしている。また畑の草取りや、時には外食や日帰り温泉などで気晴らしをされている。また習字や囲碁が趣味の方には道具を揃えられ、楽しみ事の支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望があれば散歩や近くまで買い物に出かけられる。また気候がよければ弁当を持参してピクニックに出かけられている。ドライブや花見、温泉に入りに行くなど、様々な外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などは施錠しておらず、玄関にチャイムを利用したり、見守り同行することで、鍵をかけないケアに取り組まれている。また入居者が見守りの無いまま外出されたとしても地域の方から連絡をいただくこともあり、地域的に見守りがなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーの設置や自動通報装置が用意されている。また消防署立ち会いの消火訓練や避難訓練が年に2回行われている。また今年度は地震や風水害の対策にも取り組まれている。		

グループホーム さくらはうす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスに配慮しながら職員でたてている。また栄養士に献立を見てもらい、定期的なチェックがなされている。食事はミキサー食など入居者の状態に対応されている。水分量も記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口にはプランターに花を植えてあり、一緒に入居者の笑顔の写真が飾られていることで、明るい玄関口となっている。室内も明るく、居心地の良い印象を受ける。また広々とした日当たりの良いテラスがあり、ゆっくり過ごせる工夫がなされている。畳の間も用意されており、ごろりと気持ちよく昼寝をすることができる。テレビの周りには座り心地の良いソファがあり、くつろげる雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	パソコンや趣味の囲碁盤を部屋に持ち込み、その人らしい雰囲気の居室となっていた。しかし持ち込み品の量は入居者によって違いがある。		今後はさらに入居者本人が長年愛用された物を持ち込んでいただき、馴染みの物に囲まれる事で安心できる居室作りが望まれる。